

第1回宮崎県読書活動推進委員会 協議概要

発言者	発言内容
○ 県の読書活動推進に係る施策について <span style="float: right;">※進行:竹内委員長</span>	
事務局	○ 今年度から計画している「ひなたライブラリーの設置場所等についてご意見をいただきたい。
黒木委員	○ 「ひなたライブラリー」のターゲットはどのように考えているのか？
事務局	○ 乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代を対象にしている。具体的には、こども食堂や高齢者施設、銀行や病院など、すべての世代に親しまれるような場所に設置したいと考えている。
竹原委員	○ 公立図書館から出されるリサイクル本とはどのようなものか？新たな読者を確保するという点では、売れ筋の本の方がいいのではないか。
事務局	○ 県内の公立図書館などの廃棄本を想定している。売れ筋の本については、県庁文庫等に提供してもらっている本で対応したい。
内勢委員	○ 一般の人たちからのリサイクル本も受け入れる窓口があると良いのではないか。
事務局	○ 県庁文庫については、県生涯学習課まで持参していただいているが、ひなたライブラリーについては、まだ検討中である。
林田委員	○ 本を全く読まない人も多い。自分はラグビーをしていたが、本を読むのは、怪我をしたときだった。 ○ 高校の体育系の部室に文化系の本を、文化部の部室に運動系の本を置くと手に取って本を読むのではないか。
繁昌委員	○ アシスト企業とはどのようなものか。
事務局	○ 現在県内に約280社ほど登録されており、業種はさまざま、主に学校のキャリア教育などで活用されている。
繁昌委員	○ 自動車学校（アシスト企業）は、待つ時間もあるのでもいいと思う。
進行	○ 全体のデザインを描くとよいのではないか。どこで読ませるか？ターゲットは？誰が届けるのか？アシスト企業でも、運搬の費用は出せるなど、お金を出してくれるところも考えられる。協力してもらえる市町村との連携体制も必要となってくるのではないか。
中山委員	○ 以前働いていた五ヶ瀬町でも、このひなたライブラリーのような取組をしていた。そのときは、教員が本のローテーションを行っていた。保育園の送迎時の受け渡しの時に、「ついでに読める」「ついでに借りられる」というようなものがよかったと思う。アンケートをとってみるのもよいのではないか。
黒木委員	○ 本も本棚も経年劣化等で修理などが必要になってくると考えられる。管理費などはどのように考えているのか。

事務局	○ 現在のところ、管理費については計上していないが、今後必要になってくると考える。
黒木委員	○ 特にこども食堂などでは、本が破れたり本棚が破損したりすることは十分に考えられる。破損させて叱るより、一緒に補修する姿を求めている。
中山委員	○ 県庁文庫のように固定したものを想定しているようだが、持ち運びができるような本棚もよいのではないか。
進行	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の本棚を貸し出すという仕組みも他県では行われているようである。</li> <li>○ 三股町社会福祉協議会では、居場所づくり、交流づくりなどおもしろい取組を行っている。相談すると協力を得られるのではないか。</li> <li>○ 青年会議所でも、子育てを応援するために「ベビーファースト」の取組を行っている。</li> <li>○ 川南町では、寄付で学校に絵本を配架していくシステムができている。1か所からの関係づくりのデザインが、モデルになるのではないか。</li> <li>○ 現在「フードドライブ」といった取組も行われているが、それと同時に本ももってきてもらって集めるとよいのではないか。</li> <li>○ 図書館に預けると、簡単なメンテナンスをしてくれるように、お互いがちょっとずつがんばると、おもしろい活動になる。</li> <li>○ 地元の方から寄付を募り、毎年5万円寄付をしてもらうなどすると、継続できる型になる。</li> </ul>

発言者	発言内容
○ 「生涯読書活動推進計画」の管理指標について <span style="float: right;">※進行:竹内委員長</span>	
寺田委員	○ この「本や雑誌、新聞、電子書籍などを1日に30分以上読んでいる人の割合」の目標値が70%となっているが、どのような数値なのか。他県の数値はどのような状況か。
事務局	○ 全国で見ても、なかなか社会人の読書の状況を調査してものは見当たらない。
寺田委員	○ 社会人の読書に関するデータが欲しければ、大型書店に聞くことで、見えてくるものがあるかも知れない。(ギブ&テイクで何か渡す必要があるかも知れないが)
進行	○ 指標を変えるつもりはないのか。 ○ 質問の言葉の尋ね方、問い方で回答も変わってくると思う。
黒木委員	○ 今の若い子は紙媒体よりも電子ブックで読書している子が多いと考えるが、電子ブックは含まれるのか。
事務局	○ 当初この指標を設定したときと現在の状況は変わってきている。今後整理して示したい。
林田委員	○ 昨年度、日向市で「推し本座談会」を実施した。普段本を読まない人に本を読ませるにはいろいろなと考えている。ターゲットなどを考えることも必要かとは思いますが、いろんな所に設置し、たくさんの本を普段読まない人に届けたい。
進行	○ ビッグデータをどう扱うかも考えていけるとよいのではないかと。 ○ 今年度から、県では小学4年生への学力調査も始まり、経年変化もみることができるようになると考える。データの集め方についても、この読書活動推進委員会で検討していきたい。